

平成28年度 福井県 白川文字学ゼミ 活動計画

日時	講師 および場所	プロフィール	講座内容
第1回 6/9 (木) 午後	張 莉  県立図書館 研修室	大阪教育大学特任准教授 京都大学博士課程修了 白川文字学を中国語に翻訳して出版 立命館大学白川静記念東洋文字文化賞教育普及賞受賞 著書「五感で読む漢字」 「白川静文字学的精華」	「古俗の中で蘇る文字ー西双版納（シーサンパンナ）倭人の源流を訪ねてー」というタイトルで、「白川博士の『民俗学的方法』を用いて、古代中国の民族と文字のつながりを検証する。西双版納（シーサンパンナ）のハニ族やタイ族の生活に残っている古代中国の習慣（漢字等）から切り込む。
第2回 7/8 (金) 午後	安田 登  若狭図書館 学習センター	能楽師。「身体感覚で『論語』を読み直す」「10のキーワードで味わう『論語』」等著書多数。筑摩書房「精選現代文B」に「神話する身体」が掲載されている。	国内外問わず多くの舞台を務めるほか、学校を訪れるなど、様々な形で能のワークショップを行っている。 「論語」を白川文字学を交えながら身体感覚で読むことで、新たな発見につながる。 ※漢字文化講座（生活学習館連携）
第3回 8/2 (火) 午後	円満字二郎  県立図書館 多目的ホール	編集者、ライター 大修館書店にて高校国語教科書や漢和辞典などの編集に従事後、フリーライターに。「大人のための漢字力養成講座」、「人名用漢字の戦後史」、「昭和を騒がせた漢字たち」など著書多数。そのほか、漢字や漢詩・漢文・中国史に関係する編集や執筆に携わる。	何気なく用いられた四字熟語が、実は深い意味を秘めている？漢和辞典の編集者に、四字熟語の魅力と小説の面白さを「四字熟語で読み解く小説の世界」というタイトルで、お話しいただく。 ※漢字文化講座（生活学習館連携）
第4回 9/21 (水) 午後	高島 敏夫  県立図書館 研修室	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所客員研究員 中国の古代文字を用いて、中国の歴史と文化を研究 共著：「白川静を読むときの辞典」 「入門白川静の世界」	「甲骨文の生まれた世界」 神々が出てくる卜辞を実際に読みながら、自然神や祖先神のもたらす崇りや禍いを畏れた殷代の人々の世界観に触れ、甲骨文の生まれた社会を実感的に理解する。
第5回 10/21 (金) 午後	加地 伸行  県立図書館 多目的ホール	大阪大学名誉教授 立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所副所長 漢字や漢文において豊富な知識を有する。名著「漢文法基礎」は、大学受験のバイブルとして長く読み継がれている。	「論語と漢字教育」 長い間読み継がれてきた、中国古典「論語」にスポットを当てる。人生や世界を大きな視点で考える「大人の世界」を味わう。 ※漢字文化講座（生活学習館連携）
第6回 11月 午後	芳村 弘道  県立図書館 研修室	立命館大学文学部教授、中国文学専攻。唐代の文学を主に研究 学生時代に白川博士の講義を実際に受講されている。 著書「十抄誌・夾注名賢十抄詩」等	平成24年に白川文字学の室で、展示物について、解説を実施。 白川博士が執筆された著作をもとに、文学研究的視野から中国古代文学に迫っていただく。
第7回 2月 午後	県立図書館 研修室	振り返り (今後の活用についての報告会)	